

ことわざ

い

一刻千金
いっくせん



僅かな時間が千金にも使われること。大切な時や楽しい時が過ぎ易いのを惜しむときなどに使う。

一刻千金
いっくせん



い

一寸の虫にも
五分の魂
いっすんむし
ごぶんたましい



どんなに小さく弱い虫でも、それ相応な気遣いや勇気を持っているものだということ。小さくても侮れないということ。

一寸の虫にも
五分の魂
いっすんむし
ごぶんたましい



い

犬も歩けば
棒に当たる
いぬもあそばさばぼうにあたる



物事をしようとする者は、それだけに災難に逢うことも多いものだ。

犬も歩けば
棒に当たる
いぬもあそばさばぼうにあたる



い

井の中の蛙
大海を知らず
いなかのかわす
たいかいをし



自分の狭い知識や経験に囚われ、他に広い世界があることを知らないで、何々々振る舞っている者のことを強に喻えた言葉。

井の中の蛙
大海を知らず
いなかのかわす
たいかいをし



う

嘘から出た実
うそからでまじこ



初めは嘘のつもりであったことが、結果として本当になってしまうこと。

嘘から出た実
うそからでまじこ



う

嘘つきは泥棒
の始まり
うそつきはどろぼうの始まり



平気で嘘を言う人は、そのうち平気で人のものを盗んだりするようになるということ。嘘はいけません。

嘘つきは泥棒
の始まり
うそつきはどろぼうの始まり



う

嘘も方便
うそもほうべん



時と場合によっては、嘘も手段として必要である。

嘘も方便
うそもほうべん



う

馬の耳に念仏
うまのみみねんぶつ



馬は、念仏を聴かせてもまったく気に留めない。そのように、他人の話を耳に入っても全然心を動かさないこと。

馬の耳に念仏
うまのみみねんぶつ

